

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
19	小池 義治（10）	<p>1. 学校でのマスク着脱の指導について</p> <p>コロナ禍が1年以上に及び、子供たちの心身への影響が心配される。学校生活でのマスク着用が、友達の顔を認識できない、先生の表情を読み取れないなど、コミュニケーションの壁となっている側面があり、さらに熱中症の危険性も増大させている。</p> <p>今年2月には、大阪府高槻市の小学5年の男児が、体育の授業で走っている時に倒れて亡くなり、マスク着用との因果関係が指摘されている。昨年の夏と違い、この1年間で新型コロナウイルスに関する多くのデータが蓄積されており、日本国内では20歳以下の死亡者はいまだにゼロであり、感染者のうち10歳未満は約3%、10歳から19歳は約7%と感染率も低く、小児の感染経路の約8割が家庭内感染で、学校における感染は6%ほどと示されている。子供たちの命と心身の健康を守るためには、体育の授業や登下校などの屋外活動はもとより、校舎内においても、呼吸が苦しいと感じたときなど、正しいタイミングでマスクを外す指導の徹底が必要だと考える。</p> <p>今後の社会全体のワクチン接種の進展や市内での感染状況を注視しながら、子供たちのマスク生活の弊害も考慮した柔軟な対策を求めたい。今後の学校でのマスク着脱の指導について、どのように考えているか伺う。</p> <p>2. 学校プールの存廃について</p> <p>市内の小中学校の屋外プールについては、大淵中学校や富士川第一中学校などでは既に廃止されたが、改修し継続使用している学校もあり統一がされていない。全国的には、老朽化した学校プールを順次廃止していく方針を示す自治体が増えており、代替として民間の屋内スイミングプールなどが使用されている。</p> <p>文部科学省の体育・スポーツ施設現況調査によると、プール所有の小学校は平成8年度の2万111校から平成30年度に1万5755校に、同中学校も7646校から5549校に減少している。年間数十日にすぎない水泳指導のために各学校でプールを維持するのは少子化の時代に負担が大きく、猛暑になることが多い近年の夏に、水泳の授業や夏休みのプール開放が「暑さ指数（WBGT：湿球黒球温度）」の基準超えによって頻繁に中止になってしまう現状を鑑みれば、屋外プールは順次廃止し、県営水泳場や民間の屋内プールの利用に切り替えたほうが、安全で効率的だと考える。長期的に見て学校プールをどうしていくのか伺う。</p> <p>3. 2年連続で中止となった富士まつりの今後について</p> <p>コロナ禍により、2020年、2021年と2か年にわたり、富士まつりは中止となった。富士まつりについては、平成27年度決算富士市議会事業評価で大幅な見直しとされたにもかかわらず、その後の3回の開催において抜本的な変更がされてこ</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
19	小池 義治（10）	<p>なかったと感じる。</p> <p>多額の公費を使い（2019年度決算額：1846万円余）、2022年に2019年までのやり方を再現することに労力をかけるよりも、これを機にアフターコロナ時代に即した全く新しいものをつくりあげる、または花火大会以外を廃止した上で、市外からの来訪が見込める民間主催の多彩なイベント支援に注力したほうがよいのではないかと。</p> <p>次年度以降の富士まつり開催について、どのように考えているか伺う。</p> <p>4. ジェンダー平等の視点に立ったかぐや姫コンテストの在り方について</p> <p>毎年、富士まつりに合わせて、かぐや姫コンテストが開催され、そこで選ばれた女性2人が一年間、市の観光PR大使かぐや姫として市内外で行われる観光キャンペーンや公的イベントなどで活動している。</p> <p>コンテストの審査項目として明示はされていないが、容姿や女性らしさも審査員の心象に入る可能性があり、また、かぐや姫の活動も、式典のサポートなど固定的な役割分担意識の反映と思われるものも散見される。</p> <p>この種のコンテストから、ルッキズム（外見主義）やエージズム（年齢差別）を完全に排除することは難しく、行政が関与して継続することは、今の時代の感覚にそぐわないと感じる。今後のかぐや姫コンテストについて、どのように考えているか伺う。</p>	市長 及び 教育長 担当部長